

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人 こもろ観光局	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	長野県小諸市	
所在地	長野県小諸市大手一丁目1番16号	
設立時期	平成28年11月25日	
職員数	15人	
代表者 理事長（代表理事）	花岡 隆 （（有）常盤館）	旧小諸市観光協会長として、小諸市内をはじめ周辺地域の様々なパイプ役となっており、様々な取組で成果を挙げている。また菱野温泉常盤館の社長として、地元の観光要所として一翼を担っている。
事務局長 （各種データの分析・収集）	小室 孝明（専従） （プロパー職員）	小諸市観光地域づくりビジョンの策定（平成28年）を中心的に担い、KPIの取り纏めや分析を行う。法人運営を中心に、多様な関係者との調整業務を行っている。また観光局の戦略を元に各担当の統括、業務調整を行う。
営業企画部 （プロモーション）	笠原 光（専従） （出身組織） 地域おこし協力隊	こもろ観光局の設立準備段階から従事し、地域情報の収集や一元発信の仕組み構築を担い、国内外に対するプロモーションを統括している。
事業部 （旅行商品等開発販売）	森田 亨（専従） （出身組織） 地域おこし協力隊	着地型旅行商品の開発、販売、運営を中心に行う。また観光案内所の運営を担当し、現場の総合窓口として収益を生む組織づくりを担う。
事業部 （まちづくり）	石川 実（専従） （出身組織） 地域おこし協力隊	商店街や宿、観光スポット等の事業者と関係を構築し、城下町の再生方法を研究し拠点施設整備を計画している。
事業部 （新規開発）	小宅 春樹（専従） （出身組織） 地域おこし協力隊	地域資源を活用したイベントや新規事業の開発を行っている。その他関係事業に幅広く従事し、地域全体の地域づくりも研究している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	長野県小諸市商工観光課（マーケティング、プロモーション） 農林課（食、グリーンツーリズム） 都市計画課（社会資本整備、地域公共交通） 健康づくり課（ヘルスツーリズム） 教育委員会（文化財保護・活用、スポーツツーリズム） 長野県、佐久広域連合、東信地区自治体、群馬県嬭恋村、長野原町	
連携する事業者名及び役割	（全て旅行商品開発、土産品開発、地域づくり等全般） （役員）小諸商工会議所、小諸市、佐久浅間農業協同組合、小諸市農業青年クラブ、（一社）小諸フィルムコミッション、こもろ観光ガイド協会、NPO法人小諸町並み研究会、しなの鉄道㈱、浅間・高峰観光協議会、小諸商店会連合会、小諸市金融団、日本政策金融公庫、小諸市社会福祉協議会	
官民・産業間・地域間と	（該当する要件）①、②、④	

(別添) 様式 1

<p>の持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>① 意思決定機関として理事会を設置 上記の多様な団体が参画し、小諸エリアが一体となり観光地域づくりに取り組んでいる。</p> <p>② 組織内に部門別のワーキンググループを設置 プロモーション/インバウンド対応/滞在プログラム/土産品/まちづくり他、市内事業者と協働するワーキンググループを設置している(随時増減あり)。</p> <p>④-1 実務者レベルの部会を設置 総務部、営業企画部、事業部を組織し、各部会を開催している。これには事務局だけでなく、住民、民間事業者からも参画頂いている。</p> <p>④-2 広域的に連携可能な運営体制の構築 浅間山麓や鉄道沿線等の地域、事業者と連携した協議会に複数参画し、広域連携を行っている。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>定期的ではないが地域新聞、ケーブルテレビや行政の広報(紙面、TV)等を活用し、観光地域づくりコンセプトやシンプルメッセージなどを発信している。特記としては、観光地域づくりを話題とした行政首長との対談番組を制作、地元ケーブルテレビで2週間放送し、広く住民に視聴頂いた(前年度の設立時には、シンポジウムを開催している)。</p> <p>また、住民や事業者を対象として空き家、空き店舗を活用する事業提案やマーケティング調査の報告会などを開いたり、住民団体の総会や会合時に出向き、観光地域づくりや当局事業の趣意について講演、対話を行っている。</p> <p>地域資源を活用した滞在プログラムにおいては、域外向けと住民向けとしての意図を持って造成し、住民にも積極的に参加して頂いており、地域資源や運営者(住民)と参加者(住民)が交流、体感することで郷土愛維持、醸成を行っている。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■滞在プログラムの企画、運営 ■土産品の開発 ■城下町を活かした地域づくり ■インバウンドプロモーション ■地域情報の一元発信に向けたホームページ作成及びweb、SNS発信 ■戦略策定に向けたマーケティング調査 など <p>(定量的な評価) ※平成29年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■滞在プログラム企画…38種(1種複数回開催あり)、647名参加 ■訪日教育旅行受入…9回、269名 ■土産品開発…3種開発、収益70万円超 ■SNS(facebook)発信回数…200回超(「いいね!」3,000件超) ■観光案内所来客数…2万人超(インバウンド500名超) ■地域イベント企画、協力…15種以上、参加者多数(不測定)

実施体制

(実施体制の概要)

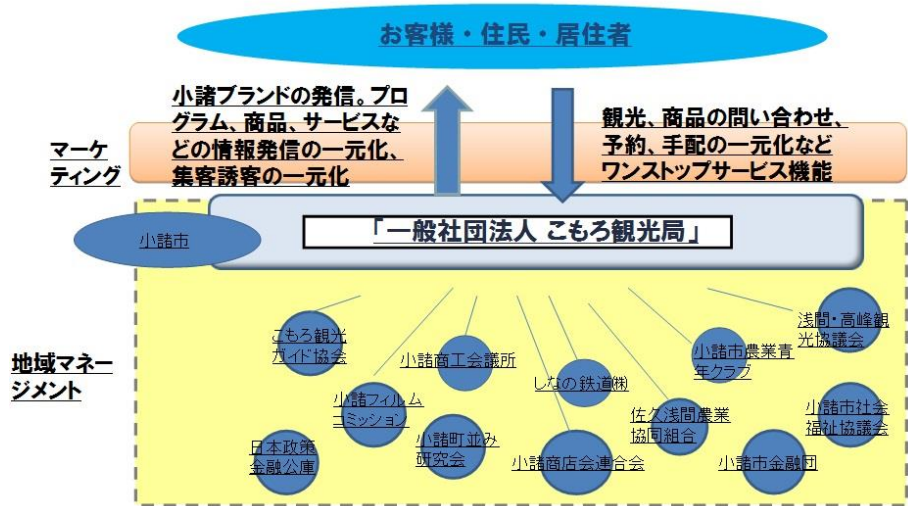
平成 28 年 11 月 25 日に一般社団法人 こもろ観光局を設立し、平成 29 年度 4 月 3 日 (月) より営業開始した。

市内の連携する事業者 (既述) より理事、監事を選任、観光地域づくりの先駆者である清水慎一氏をアドバイザーとしている。組織内には総務部、営業企画部、事業部を設置、常勤事務局 11 名が各部の担当業務を担い、部間調整や関係事業者との調整を行う。各部の部長、副部長 (複数名) は住民及び民間事業者出身 (一部、行政出身者)。

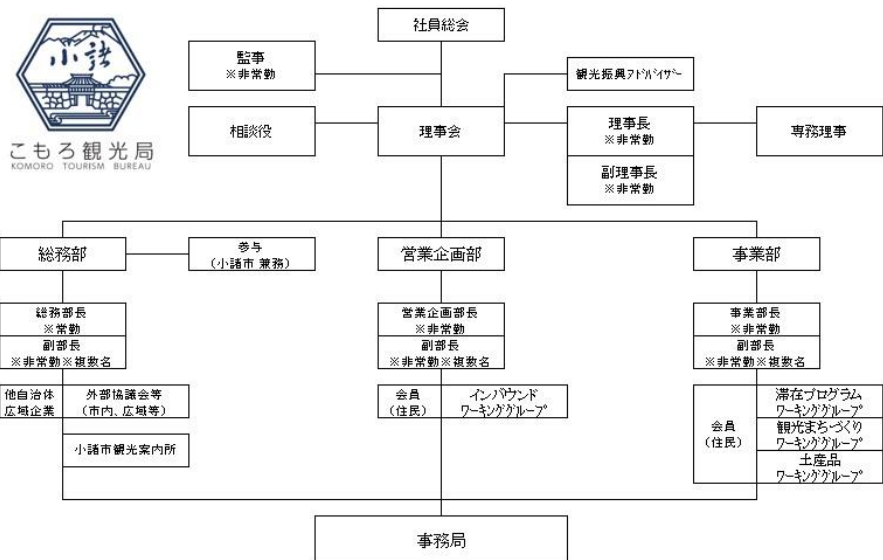
また平成 30 年度 4 月に小諸市観光協会を統合、旧協会員の移行を果たし、会議、協議会等以外のイベント等についても民間事業者と協働している。

(実施体制図)

～詩情あふれる高原の城下町～
一般社団法人こもろ観光局 実施体制図



(組織内部体制)



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

小諸市は、雄大な活火山・浅間山の南斜面に広がり、市の中央部を千曲川が流れる「詩情あふれる高原の城下町」。

東信地域と言われる長野県東部に位置し、東は御代田町に、西は東御市に、南は佐久市に、北は群馬県嬬恋村の 2 市 1 町 1 村に接しており、市の範囲は東西 12.8km、南北 15.4km、面積 98.55 km²で、東京からの距離は直線にして約 150km になる。

人口：約 43,000 人



【区域設定の考え方】

平成 25 年度～平成 27 年度にかけ、観光事業者をはじめとする各種団体が観光地域づくりの方向性を共有するため、観光地域づくりビジョン検討委員会を設置。課題の抽出や改善点、今後の方向性について議論した結果、小諸市内において、観光客等の視点に立った情報の一元化や多様な関係者間の連携強化、滞在プログラムや広域周遊観光コースの開発等が必要との認識に至った。

【観光客の実態等】

小諸市には、浅間山登山口や豊富な温泉、市街地から 30 分程度で標高 2,000m の高峰高原へ訪れることができる等、山岳高原として多くの魅力を有し、小諸駅周辺には小諸城址懐古園や旧北国街道等の歴史文化の薫る城下町としての面があり、年間 180 万人程の観光客が訪れている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

〔城下町としての町並みや面影〕

小諸城址懐古園、現存の小諸城大手門、旧北国街道沿いの町並みや文化財、牛に引かれて善光寺参り発祥の布引観音釈尊寺等

〔山岳高原〕

浅間山やその連峰、高峰高原、各種温泉、標高 1000m から 2000m における高地トレーニング、ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー等

〔イベント等〕

桜の名所 100 選、日本百名城の小諸城址懐古園における桜まつり・紅葉まつり、アニメソング界の帝王と言われる水木一郎氏が歌う「小諸ドカンショ」市民まつり、高峰高原をナイトハイクするアサマスタークロスウォーク、7 年に 1 度の善光寺御開帳に合わせて開催する布引伝説ウォーキング等

(別添) 様式 1

観光施設		
市街地域	小諸城址 懐古園	白鶴城や酔月城とも呼ばれた小諸城址。全国的にも珍しい城下町より低い穴城で、浅間山の火山灰で出来ている谷と丘を利用して造られており、水を用いず空堀で崩れやすい断崖が堅固な要塞となっている。城内を横切る形で鉄道が通っている。日本百名城。
	小諸市動物園	懐古園内にある、長野県内でも最古の動物園。ペンギン散歩や餌やり体験、ポニーへの乗馬等、ふれあい体験メニューが豊富。
	小諸児童遊園地	懐古園内にある、児童遊園地。無料のロードトレインに乗っていきことができ、お孫さん連れのおじいちゃんやおばあちゃん、子育て世代の方まで、たくさんの方が訪れている。
	小諸城三之門	懐古園の玄関口にあたり、二層、寄棟造、瓦葺の門で、両袖の塀には矢狭間・鉄砲狭間が付けられている。国重要文化財。
	小諸城大手門	小諸城の表玄関となる実戦的な城門で、華やかな装飾をはぶいた質実剛健な建築は、東日本を代表する大手門建築の一つ。国重要文化財。
	大手門公園 せせらぎの丘	小諸城大手門をはじめ、停車場ガーデン、本陣主屋等の施設と共に整備され、市民の憩いの場となっている。「緑の環境デザイン賞」の25周年記念で国土交通大臣賞を受賞。
	旧北国街道小諸宿	小諸城を中心とする城下町で、宿場として江戸中期に東信濃随一の経済圏を形成。特に醸造業は信州の最先端にあり、街道沿いの商家に往時の面影が色濃く残っている。
	旧小諸本陣	旧北国街道小諸宿の本陣と問屋を兼ねており、主屋は道路に妻をむけた、二階建、切妻造、棧瓦葺の大規模な建築で、二階にも多くの部屋を設けた総二階になっている。棧瓦葺や総二階建は当時としては数少ない例であったと言われている。
	本陣主屋	かつては旧小諸本陣(問屋場)の隣りにあり、参勤交代の大名や京都の公家を迎えた由緒ある建物で、現在は大手門公園内に移設されている。
	ほんまち町屋館	醸造業を営んでいた旧清水屋の商家造りをそのまま生かし、旧北国街道本町通りの地域交流拠点として、会議や展示、イベントなど多目的に利用できる。
	小諸義塾記念館	明治時代に誕生した私塾施設。義塾閉鎖後は、小諸商工学校や小諸幼稚園の校舎、診察室等に使用されており、復元移築した後に記念館として開設。懐古園区域にあり、共通券での入館が可能。
	藤村記念館	島崎藤村の小諸時代を中心とした作品・資料・遺品が多数展示されている。建物は日本最高峰の建築家谷口吉郎氏の設計。
	水明楼	小諸義塾の塾長 木村熊二の書齋跡で、島崎藤村をはじめ丸山晚霞、三宅克巳らと夜遅くまで語りあったと言われている。懐古園の南西、千曲川へ下りる坂の中腹にあり、窓からは遠く千曲川や眼下に藤村緑の中棚荘を望むことができる。
	小山敬三美術館	小諸市出身で、文化勲章受章、小諸市名誉市民である洋画家、小山敬三画伯が作品と共に小諸市に寄贈した美術館。建物は建築界で文化勲章を受章した村野藤吾氏の設計。
高浜虚子記念館	近代俳句の巨匠 高浜虚子が小諸で生活していた当時の貴重な作品・資料を保存展示。隣りには、虚子の旧宅「虚子庵」があり同時に一般公開している。	
中山間地域	海應院	旧北国街道荒町通りにある曹洞宗の古刹。第二次上田合戦の際、徳川軍と真田軍の和睦の仲立ちをしたと言われている。小諸市の花「コモロスミレ」の発見地としても有名。
	光岳寺	旧北国街道本町通りにあり、街道に面して立つ山門は元小諸城の足柄門を移築したもので、正面両側の柱に小さな屋根を持つ高麗門の造作が見事。
	玄江院	小諸市の東南に位置する耳取集落にあり、周りには田園風景が広がる。堂々たる山門、枯淡な庭、本堂の丸山晚霞「釈迦八双図」、市の重要文化財である玄江院宮殿が見所。
	正眼院	戦国時代に創建された曹洞宗の寺。山門は小諸城の黒門を移築したもので、小諸城址懐古園には本丸手前に黒門の礎石と付近の石垣のみが残っている。
	光岳寺	旧北国街道本町通りにあり、街道に面して立つ山門は元小諸城の足柄門を移築したもので、正面両側の柱に小さな屋根を持つ高麗門の造作が見事。
	布引観音釈尊寺	善光寺伝説「牛に引かれて善光寺参り」の舞台として登場する天台宗の名刹。険しい参道を登ると、遠く浅間山まで見通すことができる。

(別添) 様式 1

	飯綱山公園	小諸IC近くの飯綱山に位置し、富士見城跡等の史跡を活かした公園。園内には小諸高原美術館や県の動物愛護センター「ハローアニマル」が隣接。野鳥の森、歴史の広場、ドッグラン等が整備されている。
	小諸高原美術館・白鳥映雪館	飯綱山公園内で六角塔が目を引く美術館。小諸市出身の日本画家白鳥映雪館画伯の文展初入選以降の50余年にわたる間の代表作が展示されている。
	ハローアニマル(動物愛護施設)	飯綱山公園内にある動物愛護センター。犬・猫の譲渡や飼い方指導、ふれあい体験等を行っている。
山岳地域	浅間山(浅間連峰)	日本百名山の一つである浅間山は、活火山としても有名。登山口が小諸市にあることから、登山客が多く訪れている。
	高山植物園	高峰高原へ向かうチェリーパークラインにある植物園で、自由に散策することができる。
	つつじ園	高山植物園より高峰高原近くにあり、5・6月位には鮮やかなレンゲツツジ群生を楽しむことができる。
	高峰高原	浅間山の麓、標高2,000mにあり、グリーンシーズンには高山植物やトレッキングを楽しむことができ、スノーシーズンにはスキー場としてスキー客等が訪れ、昨今はスノーシュー等で雪山を楽しむ観光客が増えている。平成25年度長野県旅行者満足調査では、再来訪地第1位に選ばれた。
	池の平湿原	高峰高原と湯の丸高原の間に位置し、木道等が整備されている湿原で、コマクサ等の高山植物を楽しむことができる。
商業施設		
	マンズワイン小諸ワイナリー	小諸IC近くにあり、ぶどうの栽培から瓶詰めに至るまで、マンズワインの技術を結集して、プレミアムクラスのワインを生産している醸造所。世界のワインコンクールで数々の賞を受賞している。
	アサマ2000パークスキー場	高峰高原にあるスキー場で、名前のとおり標高2,000mに位置し、首都圏から近いことやパウダースノーが魅力。
	高峰高原ビジターセンター	高峰高原の車坂峠にあり、訪れた観光客に情報提供をしており、各種山岳ガイドツアーや体験プログラムを豊富に取り揃えている。
	小諸高原ゴルフ場	小諸ICほど近くにある眺望がよく山間コースが魅力のゴルフ場。
	観光農園(体験型りんご園)	市街地から高峰高原へ向かう途中の松井地区はりんご狩り等が体験できる観光農園が10施設程まとまっている。観光農園として先駆的な存在。
	南城公園(都市公園)	小諸市民に人気の公園で、野球場やマレットゴルフ、プール等があり、児童遊具も完備されていることから、市内外から数多く訪れている。
	小諸市文化センター	JR小海線乙女駅近くにある文化総合施設。公民館やホール、体育館、テニスコート等があり、市民の憩いの場として活用されている。
	温泉(日帰り・宿泊施設)	浅間山の恩恵の一つとして、6つの豊富な源泉を有しており、宿泊施設から日帰り温泉まで、登山客から温泉を目当てに訪れる観光客まで、幅広く楽しむことができる。
	旧北国街道沿いの老舗店舗	旧北国街道の宿場町として栄えた小諸宿の面影が垣間見える街道沿いには、味噌、酒、紙、質、飲食、土産等の古くからある店舗が訪れた観光客を魅了。
	信州 小諸そば	信州そばの地として長野県内に数多くそば屋があるが、小諸市内にも数多くのそば屋があり、信州そば振興会として質の高いおいしい蕎麦を提供。小諸は江戸蕎麦の発祥の地でもある。
	農産物直売所	標高が高く高低差のある小諸市では、高原野菜の生産者が多く、種類豊富な野菜を生産していることから、市内に7店舗の直売所がある。とれたて新鮮な野菜を求めて、地元住民だけでなく、遠方からも数多く訪れている。
	キャンプ場	高峰高原に向かう途中、自然を満喫するのに最高の環境に2施設のキャンプ場があり、子どもの林間学校から家族連れまで幅広く使用することが可能。

(別添) 様式 1

イベント	
御影新田の道祖神祭り (1月)	五穀豊穡と無病息災の願いを込めて、上宿と下宿にわかれた山車が御影地区中央で激しくぶつかりあう。江戸時代から300年以上続くお祭り。(県指定無形民俗文化財)
北国街道小諸宿のお人形さんめぐり(2~3月)	北国街道小諸宿の本町通り各店舗で、様々な時代の雛人形やつるし雛が冬の街道を彩る。期間中は、つるし雛体験教室など各種イベントが盛りだくさん。期間中の休日には、無病息災をわら馬に託す「わら馬パレード」等も開催される。
荒堀夜明かし念仏(3月)	「念仏踊り」や、子供達が数珠をまわしながら家内安全を祈る「数珠まわし」が行われる伝統行事。(市指定重要無形文化財)
小諸城址懐古園・桜まつり(4月)	懐古園の桜は、ソメイヨシノをはじめ、枝垂桜や八重桜など多くの種類が植えられ、咲く時期が少しづつ異なり、長い期間にわたり桜の花を楽しむことができる。小諸固有の桜「小諸八重紅枝垂」の原木も現存。日本さくらの会「日本さくら名所100選」。
浅間山開き(5月)	夏山シーズン入りを告げる「浅間山開き」。浅間山の平穏と登山者の安全を祈願する。浅間山開きの式典、大浅間火煙太鼓の勇ましい演奏と共に浅間山の第二外輪山の前掛山の山頂まで記念登山を行う(自由登山)。※2016年1月現在、前掛山までは入山規制中
車坂峠ヒルクライム大会(自転車競技)(5月)	標高1,975.3mの車坂峠を目指し標高差1,000mを自転車で上るヒルクライム大会。高峰高原のカラマツやシラカバの森を抜け、チェリーパークラインの大パノラマ展望の絶景を眺める峠道を自転車で駆け抜ける。ロードレーサー、マウンテンバイクによるヒルクライムと、楽しくエンジョイ部門も開催。
さくらさくライブ(5月)	さくらさくライブの合言葉は「楽しみながら震災復興応援！」音楽や芸能、美味しいものや楽しい事、そしてそこにあつまると素敵な人たち。つながる事で大事な事を思い出そう！寄付金は信州子供ネット(年変動有り)へ募金される。
菜の花まつり(5月)	小諸市御牧ヶ原台地にある「みまき大池 特設会場」にて、広大な自然をバックに黄色い「菜の花」、青い「大池、晴天の空」、緑の「高峰・浅間山」がみなさまのキャンパスを見事に彩る。菜種油による天ぷらの振る舞いも実施。
オールドローズ祭(6月)	広大な浅間山を背景に、190種ほどの個性的で神秘的なオールドローズが一斉に花を咲かせる。オールドローズの芳しい香りや1万株のラベンダーをはじめとした350種以上のハーブ等、様々な花の姿が楽しめる。
ラベンダー祭(7月)	広大な浅間山を背景に、15,000㎡の敷地に350種以上のハーブ(ラベンダーだけでも14種類、1万株)が植えられている。
市民まつり「みこし」(7月)	約40連の神輿と5万人の観客が街を埋めつくす。昼は小諸市内全域の子ども会など元気な「子どもみこし」、夕暮れには威勢の良い「大人みこし」が市街地を中心に練り歩く。
健速神社祇園祭(7月)	祇園信仰1000年といわれる「こもろの祇園」は、島崎藤村の『千曲川のスケッチ』の中にも描かれている季節感溢れる祭。本町の健速(たてはや)神社で浦安の舞が奉納され神事が厳かに執り行われ、宮出し、階段落とし後、威勢の良い掛け声とともに街中を練り歩く。
市民まつり「こもろドカンショ」(8月)	市内各区や事業所などから約2,000人の踊り手が市街地を練り歩く。「ドカンショ」とは、浅間山の噴火音にちなんだもの。最近では本来の「振り付け」にとらわれずオリジナルの踊りでの審査も行い、若者を中心とした参加者も増えてきている。
停車場ピアガーデン(8月~9月)	緑の環境デザイン賞の国土交通大臣賞を受賞した小諸駅前のガーデンで、アイリッシュ音楽をテーマにピアガーデンを開催。大手門公園内にあり、せせらぎの丘やJR小海線の旧油庫も現存、ガーデンカフェや全体的なデザインのモチーフとなっている。
小諸相生町「花市」(8月)	相生町通りが歩行者天国となり、盆花の販売のほか、太鼓演奏、フリーマーケット、夏休み木工教室、バンド演奏等、多彩な催しが行われる。
アサマスタークロスウォーク(8月)	長野県小諸市(小諸駅)から群馬県嬬恋村まで、星空を見ながら標高2,000mの車坂峠を経由して夜通しのウォーキング。31kmコース(嬬恋村つつじの湯ゴール)と17kmコース(浅間2000パークゴール)がある。
藤村忌〜花と歌を捧げる集い〜(8月)	小諸は文豪 島崎藤村の第2の出発点となった町。毎年命日にあたる8月22日に、藤村文学愛好者らが藤村記念館前に集い、花や歌を捧げて、その遺徳を偲ぶ。
こもろっく(8月)	小諸市大手門公園を会場に、入場無料で開催される野外音楽祭。模擬店も出展し10組ほどのバンドが集結。気軽にロックライブが楽しめる。少雨決行・個雨天中止で開催。
八朔相撲(9月)	元禄4年、時の小諸城主石川能登守の命により、奉納相撲として始められ、今日まで310余年に亘り由緒ある伝統行事として受け継がれる。当日は子供たちが、立派な化粧まわしをつけて市内を練り歩き、土俵入りをした後、熱のこもった取り組みを披露。(市指定の重要無形文化財)

(別添) 様式 1

こもろスクール's マーケット (9月)	小諸市内の小・中・高・養護の全学校が参加し、相生町商店街と連携して行う大規模なバザイベント。エコキャップ収集のボランティア活動や、各学校による音楽ステージ、大盛況の「お化け屋敷」まで登場する等、一大イベントに成長している。
アサマスカイマラソン(9月)	標高 2,000m以上の高地を走る『SKYRUNNING』。【ロードの部】は高峰高原と湯ノ丸高原を結ぶ林道のハーフマラソン、【山岳の部】は標高 2,227mの籠ノ登山頂を含む本格的な登山道の山岳レースが行われる。
城下町フェスタ(9～10月)	城下町の使われていない町屋、蔵などを活用して、選りすぐりの工芸や手仕事の作品、古布やアンティークの店&カフェ 10 件余りが期間限定で開店。商都小諸の文化遺産&アートとの出会いの 10 日間。
ふ～どまつり(10月)	小諸の新たな食文化(Food)の開発、地域性(風土)の掘り起し、街歩き(foot)を目的とした地元市民の手による様々なイベントを開催。また、ほんまち蔵出し市、軽トラック市、骨董蚤の市、komoro common market、しなの鉄道お客様感謝イベント等が同時開催される。
小諸城址懐古園・紅葉まつり (10～11月)	懐古園は大正 15 年、造園の権威 本多静六博士の設計によって整備されており、小諸城址の風情の中、モミジやケヤキなどをはじめ美しく色づく紅葉が楽しめる。
東信・菊花展(11月)	懐古園の秋の風物詩として知られている菊の祭典「東信菊花展」。県内各地から出展される約 700 点の菊が古城の紅葉に美しく映える。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

施設名	収容人員	施設名	収容人員
高峰温泉	70	ペンションノーサイド	15
常盤館	180	小諸ユースホステル	20
薬師館	27	蛍雪荘	20
小諸グランドキャッスルホテル	139	天池荘	30
中棚荘	70	泉の里	70
布引温泉こもろ	72	乗瀬高原荘	20
天狗温泉浅間山荘	113	松井荘	30
高峰高原ホテル	90	懐古苑	20
高峰マウンテンロッヂ	193	池の前山荘	30
小諸ロイヤルホテル	50	青雲館	53
旅籠つるやホテル	65	山田館	20
ペンションのりさんち	12		
ペンションスターダスト	20	施設計 24 施設	1,429



【利便性：区域までの交通、域内交通】

小諸市は、長野県の東部に位置しており首都圏にほど近く、北陸新幹線で 90 分程度、車でも関越道、上信越道から 120 分程度で訪れることができ、首都圏・大阪からは、高速バスを利用することも可能。市内には予約制相乗りタクシー（デマンド交通）が運行。

(東京方面)

車	練馬 IC	—	関越自動車道	—	藤岡 JCT	—	上信越自動車道	—	小諸 IC
高速バス	新宿・池袋・立川	—	小諸駅						
鉄道	東京駅	—	JR 北陸新幹線	—	軽井沢駅	—	しなの鉄道	—	小諸駅
	東京駅	—	JR 北陸新幹線	—	佐久平駅	—	JR 小海線	—	小諸駅
	新宿駅	—	JR 中央本線	—	小淵沢駅	—	JR 小海線	—	小諸駅

【外国人観光客への対応】

観光案内所では通訳が可能だが、市内における受入体制は統一的には整備できていない。多言語での観光パンフレットや移住パンフレット（市内情報概要）、指さし対話冊子等を制作し、事業者に配布している。また宿泊施設や観光施設の主要箇所では wifi 整備が整っている。飲食店含め、一部の店舗では英語を中心とした多国語表記での案内やメニュー表記などが進んでいる。また駅周辺などの案内看板の多国語表記を進めている。

行政とも協力し、海外の一部地域との友好関係を進めているが、大掛かりなプロモーションや滞在プログラムの直接販売などは、営業開始間もないため運営体制を鑑みながら実施していく。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光地入込調査	経済効果の指標として、小諸市への来訪者の状況を把握するため。	観光施設等からデータ収集し、市を通じて実施。
市内宿泊者調査	経済効果の指標として、小諸市に訪れ宿泊している状況把握をするため。	宿泊施設からデータ収集し、市を通じて実施。
外国人宿泊調査	ターゲット選定の指標として、外国人の来訪状況を把握するため。	宿泊施設からデータ収集し、市を通じて実施。
交流人口調査	観光のみならず交流人口の指標として、交通機関を利用した来訪状況を把握するため。	交通機関（鉄道、高速道路、高速バス）からデータ収集し、自主事業として実施。
観光 web 媒体アクセス調査	情報の一元化観光情報収集の状況を把握するため。	自 HP、観光協会 HP、小諸日和の 3 つのアクセス数を収集し、自主事業として実施。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・ 浅間山や高峰高原の山岳高原観光 上信越高原国立公園 高地トレーニング 温泉、水源、高山動植物等 標高 2,000m の眺望 市街地から 30 分程度で行ける立地 ・ 標高差があることで景観が良い ・ 降水量が少なく日照条件が良い ・ 地震や台風等の自然災害が少ない ・ 懐古園（三の門・大手門）や北国街道等の歴史文化の薫る観光資源 ・ 首都圏から 2 時間程度の立地条件 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・ ブランドと成り得る観光素材や特産品等が見出せていない ・ 歴史文化の素材を活かしきれていない ・ 情報発信力不足や知名度の低さ ・ 団体間の連携が取り切れていない ・ 歴史文化等、観光関連知識、意識の低下 ・ 観光地域づくりビジョンが共有されていない ・ 公共交通（二次交通）網の減退 ・ 訪日外国人観光客の誘客及び受入が整備できていない
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・ 国の政策による訪日外国人誘客促進（訪日外国人観光客の増加） ・ 平成 32 年東京オリンピック・パラリンピック開催 ・ 長野県や他組織 DMO との連携 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・ 少子高齢化や人口減少による観光需要の減少 ・ 都市部への人口集中による地域間格差 ・ 人口の流出によるコミュニティ機能の低下

(別添) 様式 1

	・ 周辺地域の広域連携意識の向上	・ 旅行形態の多様化 (通過型観光による滞在時間の短縮) ・ 大型バス規制強化による団体旅行減少 ・ 浅間山の噴火活動による風評被害
--	------------------	---

(2) ターゲット

○第1ターゲット層 関東圏の60代以上の層
○選定の理由 アンケート調査結果より、現来訪者の半数以上を占め、「小諸」の認知度の高さから、リピーターにもつながり再来訪意向も強い。観光意欲の高い層として三世代観光などへの動機づけにも繋がり、関東圏は圧倒的に人口が多く、交通の便やアクセス性がよい。
○取組方針 情報発信はインターネットに頼り過ぎず、趣向ある媒体宣伝や新聞、ケーブルテレビ等でのアプローチ。また既に来訪者の多い施設との連携やリピーター向上施策。
第2ターゲット層 関東圏の30代の層
○選定の理由 マーケティング調査結果では30代の認知度が低かったものの、次世代の来訪者層として、またファミリー層や3世代来訪者として将来的な需要を見込んでいく必要がある。関東圏を選定している理由は第1ターゲットと同じ。
○取組方針 Webを中心として、趣向、デザイン性やこの層が利用しやすい、興味を惹く商品作りを行い、資源や商品に合わせた趣向の媒体やweb宣伝を行っていく。
第3ターゲット層 日本の歴史に興味を持つインバウンド
○選定の理由 小諸城址をはじめとする歴史的な建造物や街並みが残る北国街道小諸宿について、潜在的な価値が十分にあると認識しており、またそれらに興味を示すインバウンド向けに整備、プロモーションを進めることで、歴史、伝統の維持、活用に繋げる。
○取組方針 市内事業者のインバウンド対応を進めるため、観光案内所で最新システムの実証を行いつつ、事業者への導入を見極めていく(翻訳案内や多国語メニュー表記等)。またプロモーションにおいては、HPやSNSの多国語化はもちろん、近隣市町村や企業と協議会を持ち、web、紙面、対面での営業活動を行っていく。

(3) コンセプト

①コンセプト	「詩情あふれる高原の城下町」
--------	----------------

(別添) 様式 1

<p>②コンセプトの考え方</p>	<p>「詩情あふれる」 小諸という都市が形成されて以降、小諸市が歩んできた歴史、文化的な背景を重んじ、島崎藤村や高浜虚子に代表される著名人に愛された小諸を、将来を担う子供たちへ傳承していき、小諸ならではの詩情という価値が広く現代社会に認知されることを目指す。</p> <p>「高原」 小諸はまち全体が標高 600～2,000m 程度に立地していることから、まさに高原が暮らしの中に根差しており、ここで育まれてきた風土、風習は先人たちが築き上げてきた小諸特有のものと言える。</p> <p>「城下町」 小諸の起源は、その名の由来となっている平安時代の“小室”太郎光兼からはじまっており、戦国・江戸時代を通して城下町が整備され、旧北国街道小諸宿として古くから交通の要所を担ってきたことを踏まえ、これからも後世に伝えていく。</p>
-------------------	--

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有</p>	<p>小諸市観光地域づくりビジョンに基づく基本戦略、及び訪問客実態調査及びマーケティング調査に基づいた戦略を組織関係者やワーキンググループメンバーと共有し個別事業を進めている（理事会、各部会、ワーキング会等）。組織関係者とは、役員や専従事務局だけでなく地域の事業者も実務を担っている。</p> <p>また観光地域づくりビジョンやコンセプトを前提とし、広域連携協議会等においても、自戦略を各事業内容に照合しながら協議している。</p> <p>なおワーキンググループ以外にも、住民が形成する地域づくり団体（城下町、里山、山岳高原の分類）にアプローチし、会議等の場で合意形成を始めている。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>来訪者満足度調査の方法を探っている中ではあるが、その結果の全体数値を関係者にフィードバックし、特に直接調査を行った箇所については個別指標のフィードバックも行い、サービスや施設品質を維持向上していく体制を作り始めている。また滞在プログラム（店舗実施あり）や土産品販売で提携している事業者については、都度意見交換を行い、信頼関係を慎重に構築しながら改善点等を共有しリピーター創出や口コミ発信誘発に努めている。</p>

(別添) 様式 1

	<p>インバウンド対応については、行政や民間団体と観光・案内看板やパンフレットの多言語化に協力すると共に、接客現場での最新便利ツールの発掘、試供を行い事業者へ手引きすることでの品質向上を目指している。</p>
一元的な情報発信・プロモーション	<p>観光案内所の運営をはじめ、電話問合せ、パンフレット送付など、観光に関する情報提供の窓口を当局に一本化している。</p> <p>また行政や地域団体、企業等から地域情報を集め、大々的なイベントに限らず地域に密着した情報収集をしており、ホームページや SNS を利用してタイムリーに発信している。また季節に合わせ、TV や新聞、雑誌など、地域の広報宣伝を担っている。域外の関係業者からの問い合わせや情報提供も担う。今後、行政などの観光情報 web ページの統一化についても検討を進めていく。</p> <p>観光プロモーションについては、十分に戦略を共有した上で、行政と協働している部分もあるが、将来的には役割分担をよりはっきりさせ、当局に一本化していく見込み。</p>

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
●旅行消費額	円	-	21,039	19,189	21,461	21,676	21,893
●延べ宿泊者数	万人	6.82	7.08	6.76	7.2	7.3	7.4
●来訪者満足度	%	-	83.7	87.1	85.7	86.5	87.4
●リピーター率	%	-	71.4	62.9	72.4	73.2	73.9

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

平成 28 年度より来訪者満足度調査を開始した。基本的には観光圏の様式に合わせているが、一部独自の設問を入れている。これらの指標についてはまだ取り始めて経験が浅いが、地点設定、時期等を見直しながら分析し、実のある KPI として確立していきたい。

延べ宿泊者数については以前から行政が採取しており、公表される数字との整合性をとるため、市内宿泊施設から行政が取得している数字を手配している。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

経営会議となる三役部長会内で諮り毎年 1%増を目標としているが、実績取得・分析を繰り返しながら目標の見直しも視野に入れている。

●延べ宿泊者数

基本的には社会的人口減少のため、維持、減少が前提と考えるが、地域全体としての事業努力により、小諸市第 5 次基本構想に合わせ平成 27 年度から 12 年間で 1 割増としている。

(別添) 様式 1

●来訪者満足度 経営会議となる三役部長会内で諮り毎年1%増を目標としているが、実績取得・分析を繰り返しながら目標の見直しも視野に入れている。
●リピーター率 経営会議となる三役部長会内で諮り毎年1%増を目標としているが、実績取得・分析を繰り返しながら目標の見直しも視野に入れている。

(2) その他の目標

指標項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
●観光地入込数	万人	181.4	182.7	171.3	189.0	191.0	192.0
●交流人口増減数	万人	500.9	509.6	528.5	504.0	509.0	513.0
●ウェブアクセス数	万件	18.76	15.84	12.36	29.4	30.0	31.25

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

行政が一般的に指標として用いる観光地入込数を採用。以前から行政が採取しており、公表される数字との整合性をとるため行政から数字を手配している。大きく市内6か所の観光スポットでの入込数としている（実際は更に分割された29箇所数値を採っている）。

交流人口増減数は、鉄道、高速バス、高速道路の利用者数（台数）から把握している。交流人口と区別のできない住民数もカウントされているが、経年で同じ測り方をすることで増減数としての指標としている。

ウェブアクセス数は、以前より旧観光協会ページと小諸日和というサイトが並行しており、当局のページへの統合を図っている（3サイトを1サイトへ）。4月に観光協会が正式に統合したため、旧ページの削除を見込み局ページの改修を進めているが、旧ページが稼いできたアクセス数は大きく検索上位にくるため、暫くは残しつつ、局ページへの完全移行を計画している。これらのサイトアクセス数合計を実績として挙げているが、一部不具合が起こっており、当初目標値に見込んだ数字が取れていないため少なくなっている。不具合解消次第、目標値も見直していく。

【設定にあたっての考え方】

●観光地入込数

基本的には社会的人口減少のため、維持、減少が前提と考えるが、地域全体としての事業努力により、小諸市第5次基本構想に合わせ平成27年度から12年間で1割増としている。

●交流人口増減数

基本的には社会的人口減少のため、維持、減少が前提と考えるが、地域全体としての事業努力により、小諸市第5次基本構想に合わせ平成27年度から12年間で1割増としている。

●ウェブアクセス数

小諸市第5次基本構想に合わせ平成27年度から12年間で1.5倍としている。ただし、上述のとおり3サイトの統合やSNSのフォロワー数等の数値も参考にしている為、統合に合わせ考え方含め目標値を再設定していきたい。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
28 年度	4,400,000 (円) ※基金含まず	【国からの補助】 0 【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金等】 (基金) 3,600,000 【地方公共団体からの指定管理収入】 0 【会費収入等】 0 【収益事業収入】 4,400,000 【民間企業等からの寄付等】 0 (円)
29 年度	59,800,000 (円) ※基金含まず	【国からの補助】 0 【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金等】 (交付金含む) 51,400,000 【地方公共団体からの指定管理収入】 0 【会費収入等】 800,000 【収益事業収入】 7,600,000 【民間企業等からの寄付等】 (基金) 2,600,000 (円)
30 年度	88,800,000 (円)	【国からの補助】 0 【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金等】 (交付金含む) 66,000,000 【地方公共団体からの指定管理収入】 0 【会費収入等】 4,500,000 【収益事業収入】 13,300,000 【民間企業等からの寄付等】 5,000,000 (円)
31 年度	84,000,000 (円)	【国からの補助】 0 【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金等】 (交付金含む) 66,000,000 【地方公共団体からの指定管理収入】 0 【会費収入等】 3,000,000 【収益事業収入】 15,000,000 【民間企業等からの寄付等】 0 (円)
32 年度	90,000,000 (円)	【国からの補助】 0 【都道府県からの補助金】 0 【市町村からの補助金等】 (交付金含む) 66,000,000 【地方公共団体からの指定管理収入】 0 【会費収入等】 4,000,000 【収益事業収入】 20,000,000 【民間企業等からの寄付等】 0 (円)

(別添) 様式 1

(2) 支出

年度	総支出	内訳
28年度	4,870,000 (円)	【管理費】 370,000 【プロモーション】 0 【マーケティング】 4,500,000 【観光イベントの開催費】 0 (円)
29年度	57,780,000 (円)	【管理費】 200,000 【プロモーション】 20,000,000 【マーケティング】 5,000,000 【観光イベントの開催費】 2,000,000 【その他事業経費】 30,580,000 (円)
30年度	88,800,000 (円)	【管理費】 7,500,000 【プロモーション】 25,000,000 【マーケティング】 4,000,000 【観光イベントの開催費】 3,000,000 【その他事業経費】 49,300,000 (円)
31年度	84,000,000 (円)	【管理費】 7,000,000 【プロモーション】 20,000,000 【マーケティング】 4,000,000 【観光イベントの開催費】 3,000,000 【その他事業経費】 50,000,000 (円)
32年度	90,000,000 (円)	【管理費】 7,000,000 【プロモーション】 20,000,000 【マーケティング】 4,000,000 【観光イベントの開催費】 3,000,000 【その他事業経費】 56,000,000 (円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

公的資金を元に、滞在プログラム（収益イベント含む）や土産品等の開発を進め各事業の安定化を図る一方で、地方公共団体の指定管理を獲得できる運営体制を構築し、資金確保に向けた財政としての安定化を目指す。地域のブランディングを行う中でも、それを活かした滞在プログラムや土産品開発をし、またアルベルゴディフーズのような地域体制の構築に努め、地域に還元しながら当局としても収益を得られる仕組みを作っていく。

地域情報の収集や一元発信においても、公共活動の一環としての認識は持ちつつ、地域や事業者と win-win の関係を持ちながら収益体質を生めるような仕組みづくりを行う。合わせて会費額の向上を目指し、事業者等との連携強化を行う。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

長野県小諸市は、一般社団法人 こもろ観光局を小諸市における地域DMO法人として登録したいので、一般社団法人 こもろ観光局とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	小室 孝明
担当部署名 (役職)	一般社団法人 こもろ観光局 (事務局長)
所在地	長野県小諸市大手一丁目1番16号
電話番号 (直通)	0267-22-1234
FAX 番号	0267-46-9077
E-mail	info@komoro-tour.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

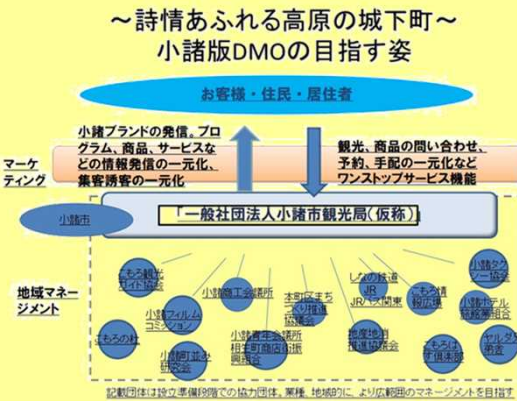
都道府県・市町村名	長野県小諸市
担当者氏名	大井 芳知
担当部署名 (役職)	経済部商工観光課観光交流係 (係長)
所在地	長野県小諸市相生町 3-3-3
電話番号 (直通)	0267-22-1700 (内線 2211)
FAX 番号	0267-24-3570
E-mail	kanko@city.komoro.nagano.jp

(詩情あふれる高原の城下町)

【区域】長野県小諸市
【設立時期】平成28年11月25日
【代表者】花岡 隆
【マーケティング責任者】小室 孝明
【職員数】15名
【連携する主な事業者】

小諸商工会議所、小諸市観光協会、佐久浅間農業協同組合
小諸市農業青年クラブ、(一社)小諸フィルムコミッション
こもろ観光ガイド協会、NPO法人 小諸町並み研究会
しなの鉄道(株)、浅間・高峰観光協議会、小諸商店会連合会
小諸市金融団、日本政策金融公庫
小諸市社会福祉協議会等

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標)) ()内は外国人に関するもの

	27年(度)	28年(度)	29年(度)	30年(度)	31年(度)	32年(度)
旅行消費額(円)	-	21,039	19,189	21,461	21,676	21,893
延べ宿泊者数(万人)	6.8	7.1	集計中	7.2	7.3	7.4
来訪者満足度(%)	-	83.7	87.1	85.7	86.5	87.4
リピーター率(%)	-	71.4	62.9	72.4	73.2	73.9

Aに関する取組を記載

駐車場ガーデン:小諸駅前にあるオープンガーデン。懐古園と商店街を結ぶ位置にあり、周遊可能な仕組みづくりに取り組んでいる。
マンズワイン小諸ワイナリー:小諸ICに近く、世界の品評会で数々の賞を受賞しているプレミアムワインを醸造している。施設見学やイベント等で団体バスが数多く訪れ、市内周遊の一端を担っている。
松井農園:観光農園として先駆けであり、リンゴ狩り等、老若男女を問わず楽しむことができる。

Bに関する取組を記載

浅間山:日本百名山として多くの登山客が訪れ、活火山としても有名だが、噴火警戒レベルの設定など防災体制が整備され安心して登山を楽しむことができる。
高峰高原:浅間山の麓、上信越高原国立公園内の標高2,000mに位置し、夏のトレッキングから冬のスノーシューまで年間を通して楽しむことができ、立地を生かした星空観察や高地トレーニング誘客等を展開している。
温泉:市内に6種類の源泉を有し、宿泊施設と合わせたインバウンド誘客を促進していく。

長野県小諸市

A
観光施設

C
文化

B
自然

小諸駅

D
イベント
商業施設

Cに関する取組を記載

小諸城址懐古園:日本さくら名所100選や日本100名城として名高く、小諸駅に近いことから軽井沢町等周辺からの誘客にも力を入れており、訪日外国人観光客が訪れやすい環境整備を進めている。
旧北国街道:小諸宿として城下町が形成されており、当時を偲んで多くの観光客が訪れていることから、街道沿いの広域連携が可能。布引観音:善光寺法話「牛に引かれて善光寺参り」の発祥として有名。7年に1度の御開帳にあわせたイベント等が開催されている。

Dに関する取組を記載

市民まつり「小諸ドカンショ」:浅間山の噴火音を模しており、アニメソングの帝王 水木一郎氏が歌う夏のお祭りとして、市内外から多くの方が訪れている。
車坂峠ヒルクライム:市内から高峰高原まで標高差1,000mを駆け上がる自転車レース。開催11回となり、自転車ファンが市内に訪れる等、効果が出てきている。
アサマスタークロスウォーク:小諸市から高峰高原を経て群馬県嬬恋村までの31キロを歩くナイトウォーキング。星空観望会を同時開催する等、県境を越えた広域イベントとして定着している。